

市町村名	恩納村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	観光地危険生物駆除事業（ハブ駆除事業）	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ			
				観光客の受入体制の整備			
担当部課名	村民課	事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	観光客の多く訪れる真栄田岬や国頭方西海道（歴史の道）周辺においてハブが出没していることから、地域住民や観光客の咬症被害防止を図るため、ハブの駆除を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,000	4,877	5,865	5,858	5,820
		(b) 予算現額	5,000	4,902	5,662	5,683	5,575
		(c) 増減額 (b-a)	0	25	▲ 203	▲ 175	▲ 245
		(d) 繰越額	－				
		A. 計 (b+d)	5,000	4,902	5,662	5,683	5,575
	B. 執行済額		4,811	4,902	5,617	5,385	5,280
	うち交付金充当額		3,848	3,921	4,494	4,308	4,224
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		96.2%	100.0%	99.2%	94.8%	94.7%
予算の状況の説明		ハブ売上収入（交付対象外経費）と不用額により245千円の予算減額となったが、当初計画していた事業内容はすべて実施することができた。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	ハブ生息地へのハブ捕獲器設置数：400箇所	目 標	（ 400箇所 ）	（ 400箇所 ）	（ 400箇所 ）	（ 400箇所 ）	
		実 績	450箇所	450箇所	450箇所	450箇所	
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成状況説明	・観光地周辺を中心に、村内南部のタイワンハブやタイワンスジオの生息地にハブトラップ（罟）を設置して捕獲した。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	ハブ捕獲数：150匹	目 標	（ ）	（ 180匹 ）	（ 150匹 ）	（ 150匹 ）	（ ）
		実 績		114匹	212匹	193匹	
	【H30成果目標】 捕獲器設置周辺における咬症被害件数：0件	目 標					0件
	進捗状況説明	平成28年度より19匹少ない捕獲数であったが、ハブ捕獲器の入口（ロート）の改良と平成28年度から捕獲数増加傾向にあった宇加地地区への捕獲器増加により、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・入口（ロート）の改良を行ったハブ捕獲器については、未改良の従来型より多くの捕獲があった。 ・平成29年度に新たに設置した仲泊集落地域と前兼久集落地域でのハブ捕獲はなかったが、ハブ生息地と非生息地の境界での捕獲数が平成28年度は0匹に対して、平成29年度は10匹の捕獲があった。	・入口（ロート）の改良を行ったハブ捕獲器が従来型より高い捕獲実績を上げていることから、従来型捕獲器についても改良型に置き換えていく必要がある。 ・生息地と非生息地の境界での捕獲数が増加しているため、今後、生息地拡大の恐れがある重点区域として駆除を強化する必要がある。
今後の取り組み方針		
・効果的な駆除のため、従来型のハブ捕獲器について入口（ロート）を改良した改良型に切り替えていく。 ・ハブ生息地と非生息地の境界を重点区域とし、捕獲器を増設する。また、現在はハブ捕獲がない仲泊地域と前兼久地域についても引き続き捕獲器設置を行い生息域の状況について調査する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,511</td><td>5,280</td><td>4,224</td><td>1,056</td><td>231</td></tr></table> 恩納村 5,511千円 報酬 4,101千円 嘱託職員 2人 4,101千円 ハブ駆除事業に係る報酬 共済費 627千円 嘱託職員 2人 社会保険料 事務費 783千円 需用費、使用料及び賃賃料 ハブ売上収入（交付対象外経費） 231千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,511	5,280	4,224	1,056	231
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,511	5,280	4,224	1,056	231										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○嘱託職員の採用方法について、村の規定に準じ採用した。また、特殊事業のため経験者を採用した。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○費用については、見積入札や村の規定に準じているため適正であった。										
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目、使途については事業目的の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類確認を行い適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	恩納村観光誘客・おもてなし推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
			観光客の受入体制の整備					
担当部課名	商工観光課		事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光誘客を図るため、PR活動やそれに伴う情報媒体の整備、また、イベント・プロモーション活動や観光案内人の配置を行う。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）							
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,000	11,319	11,418	15,989	52,090	
		(b) 予算現額	3,973	7,004	11,657	12,184	52,090	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,027	▲ 4,315	239	▲ 3,805	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	3,973	7,004	11,657	12,184	52,090	
	B. 執行済額		3,973	7,004	11,449	12,181	49,679	
	うち交付金充当額		3,178	5,603	9,160	9,743	39,743	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	95.4%	
	予算の状況の説明		補正予算で減額を行わなかったため2,411千円の不用額が生じたが、当初計画していた事業内容は全て実施することができた。					
	活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度		
観光誘客プロモーションの実施		目 標	(-)	(-)	(-)	(2回実施)		
		実 績	-	-	-	2回実施		
イベントの開催		目 標	(-)	(花火大会の開催)	(花火大会の開催)	(2回実施)		
		実 績	-	花火大会開催の実施	花火大会開催の実施	2回実施		
情報媒体の整備・作成		目 標	(情報の更新)	(-)	(-)	(6万部作成)		
		実 績	情報の更新	-	-	7万部作成実施		
観光案内人の配置		目 標	(-)	(2人)	(案内スタッフ配 置の支援)	(実施)		
		実 績	-	2人	案内スタッフ配置の支 援実施	実施		
達成状況説明		観光誘客プロモーションは、おんな村観光物産展を東京都池袋サンシャインシティで行い、5社が出展した。恩納村の特産品のPRや恩納村青年団による演武、ミス恩納ナビーによる観光PRを行った。また、韓国プロモーション事業では釜山国際旅行博覧会へ出展した。イベントは美ら海花火大会（観覧者数15,000人）、サンセットビーチフェスタ（来場者数3,982人）を開催した。 情報媒体の整備・作成は多言語観光パンフレットを作成した。 恩納村文化情報センター観光情報フロアに観光案内人2人（バイリンガル）を配置した。						
		H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度
	宿泊客数	目 標	()	(-)	(-)	(256万人)	()	
		実 績		-	-	286万人		
	プロモーション活動の実施	目 標	()	(-)	(-)	(2回)	()	
		実 績		-	-	2回		
	イベントの開催	目 標	()	(1回)	(1回)	(2回)	()	
		実 績		1回	1回	2回		
	情報媒体の整備・作成	目 標	()	(-)	(-)	(60,000部)	()	
		実 績		-	-	70,000部		

成果目標 (指標) 及び進捗状況	【参考指標】 観光情報案内人数		目 標	()	(3,000人)	(6,000人)	(9,000人)	()
			実 績		8,697人	8,958人	9,719人	
	【H30成果目標】 ①宿泊客数:276万人以上 ②イベント来場者数:20,000人以上 ③観光案内所を訪れた観光客等に対し、利便性が確保されたか(80%以上)を含めアンケートを実施し、本事業のあり方を検証する。		目 標					①276万人以上 ②20,000人以上 ③80%以上
進捗状況説明		・プロモーション活動のおんな村観光物産展では、恩納村観光PRタイムを設け、恩納村青年団エイサー演武やミス恩納ナビーによる観光PRを実施した。また、村内リゾートホテル東京支社スタッフによる観光パンフレットの配布や沖縄リゾートウェディング協会等による恩納村リゾートウェディングのPRを行った。 ・イベントは美ら海花火大会、サンセットビーチフェスタと2回実施することができた。美ら海花火大会は3回目の実施ということもあり、来場者からは概ね好評であった。サンセットビーチフェスタは初めての開催であったが、恩納村の第三次観光振興計画の「風と光が流れ時を忘れる村 恩納村」のテーマに沿ったリゾート感のあるアーティストのライブを中心に、昼間はマリナクティビティ、夜は夕日をバックにライブといった演出で3,982名の来場があった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・プロモーション活動のおんな村観光物産展で、アンケート調査を実施したところ、「恩納村に行ったことがない(43%)、知らない(16%)」という結果となった。 ・サンセットビーチフェスタで、イベントの満足度について来場者アンケートを実施し、普通・やや不満との回答が35%であった。満足度が低かった理由としては、出店数が少ないことや会場の配置が分かりづらい等の意見があった。 ・美ら海花火大会も来場者及び事業所アンケートを実施した。飲食ブースが少ない、混んでいるといった意見やシャトルバスの運行(乗降場所が分かりづらい、周辺道路の混雑が影響しスムーズな運行ができていない)等についての不満があった。	・おんな村観光物産展では、恩納村への来訪を増やす取組や認知度を上げる取組も必要である。 ・サンセットビーチフェスタは運営を見直し、来場者の満足度向上に努める。 ・美ら海花火大会は主会場側と飲食ブースの増強について協議し、シャトルバスも運行方法を見直していく。
今後の取り組み方針		
・おんな村観光物産展では、物産展の目玉となるフードメニューを開発することで、物産展への来場者を増加させ、恩納村の認知度向上を図る。また、会場の大型スクリーンでPR動画を発信することにより、恩納村への来訪者数を増やしたり、認知度を高める。 ・サンセットビーチフェスタは出店を増やし、会場案内図を設置する。 ・美ら海花火大会は飲食ブースを増やし、配置を工夫し混雑を緩和する。また、シャトルバスの誘導員を増員し、スムーズな運行を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
恩納村 50,549千円 委託料 50,549千円 恩納村観光協会 50,549千円 ・観光誘客人の配置(1人) ・観光案内人の配置(バイリンガル2人) ・観光ナビマップ(多言語パンフレット)作成 ・イベント事業 (美ら海花火大会、サンセットビーチフェスタ) ・観光プロモーション事業 (おんな村観光物産展、韓国釜山旅行博覧会)				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、本村の観光を推進する特化した事業所となっており、その他事業所にはないため、支出先の選定方法は妥当であったと考えている。 ○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。 ○使途については、事業目的達成の観点から必要なものかどうか検査時において、支出等に関する書類により確認し、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

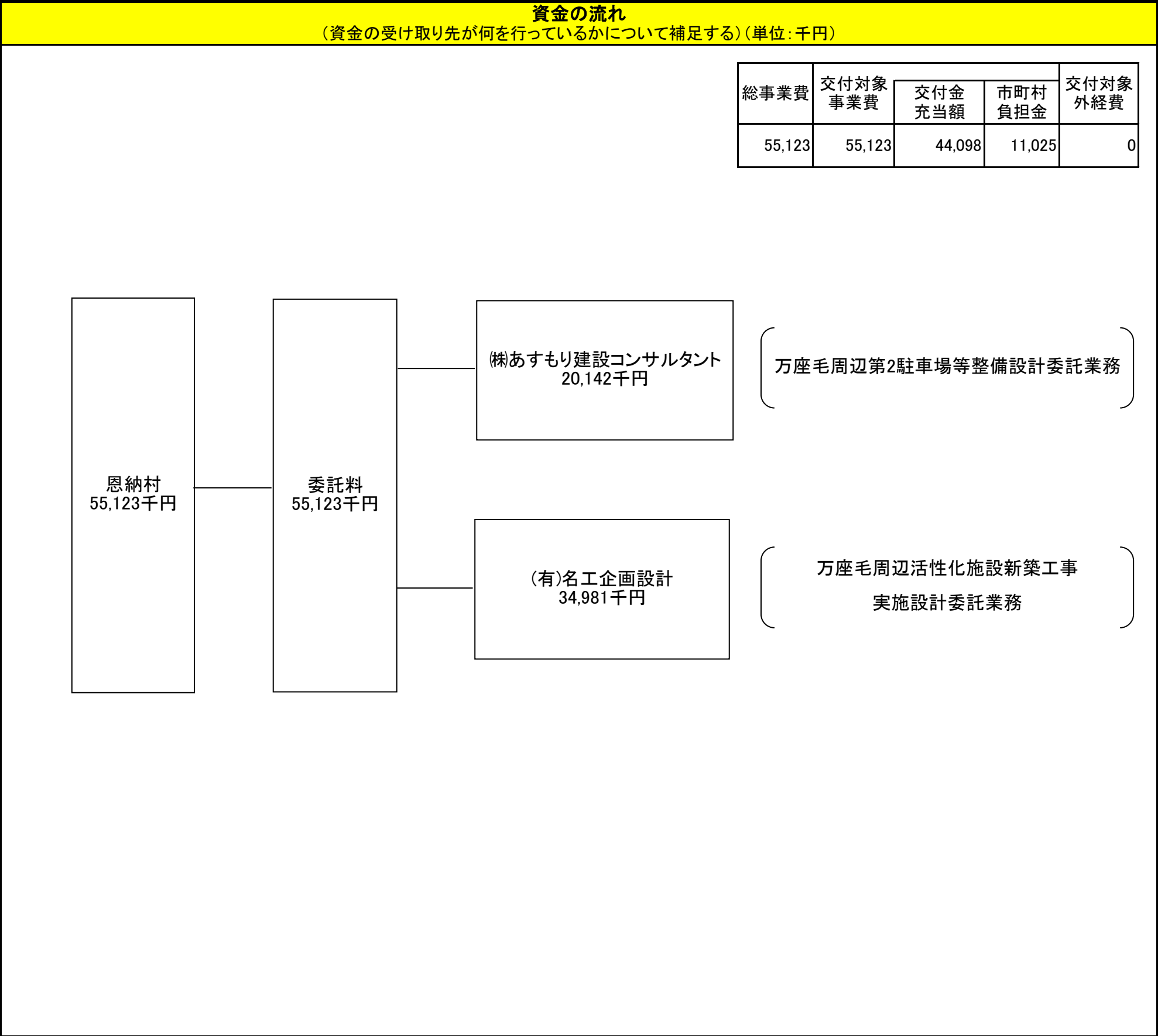
市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③	恩納村観光危機管理推進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	商工観光課		事業実施 （予定）年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本村を訪れた観光客が災害時に安全に避難等が出来るよう計画を策定するとともに、観光関連事業所用の災害対応マニュアルや報告様式雛形を作成し、活用を促す。また、勉強会や避難訓練を実施し、関係機関と連携し、安心・安全な観光地の形成を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,730					
		(b) 予算現額	9,180					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 550					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計 (b+d)	9,180					
	B. 執行済額		9,180					
	うち交付金充当額		7,344					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
	予算の状況の説明		入札残により当初予算額から550千万円の減額となり、3月に減額補正した。当初計画どおり管理計画を策定することができた。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	・恩納村観光危機管理計画の策定	目 標	（ 策定 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	策定					
	・勉強会（3回）及び訓練（1回）の実施	目 標	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	実施					
	達成状況説明	恩納村観光危機管理計画の策定にあたり、勉強会3回、避難訓練・報告会（1回）を実施し、計画策定を行った。観光関連事業者との勉強会で事業所用マニュアル策定や報告書雛形について、意見を聴取し作成した。また、独自にマニュアル等のない事業所に対して、本事業で作成したマニュアル等の活用を促した。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度
・恩納村観光危機管理計画の策定完了		目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
・勉強会及び訓練への参加人数：160人		目 標	（ ）	（ 160人 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		87人				
進捗状況説明		観光危機管理計画の策定は目標通り達成できた。勉強会及び訓練への参加人数が目標の160人に達することができなかった。勉強会の案内は村内主要ホテル16か所、観光関連施設5か所、関係機関4か所の合計25か所へ呼びかけを行った。参加人数の87人は3回実施した勉強会へ参加した事業所等の延べ数であり、事業所によっては2人や3人で参加している所もあった。避難訓練は海浜エリアの6事業所の担当者等が参加し、避難方法や避難場所等の課題を見つけることができた。また、連絡体制の構築を図ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・勉強会へは、村内25事業所等に案内をかけたが、人員体制等、業務の都合により参加できない事業所もあり、参加人数が目標に達しなかった。 ・避難訓練を実施してみると、避難方法は原則徒歩だが、避難経路の道幅が狭く、ブロック塀の倒壊等が起こると通れなくなる可能性のある場所があった。 ・避難訓練を実施したところ、避難場所までたどりついても、避難場所の報告の際に、地番など具体的な表示がなく、場所が特定しづらいため、スムーズな報告ができなかった事例があった。	・今後は、村観光協会や村商工会と連携して、同協会及び商工会加入事業者へ観光危機管理計画や事業者マニュアルの周知を図る必要がある。また、同計画に基づいた避難訓練を定期的の実施し、連絡体制等、村と観光関連事業者との連携強化を図る必要がある。 ・避難経路が寸断された場合を想定し、安全な避難経路を何通りか構築することで、迅速・確実な避難につなげる必要がある。 ・スムーズな避難報告ができるよう、避難場所が一目で特定できるよう地番等を表示する。
今後の取り組み方針		
・今後は、策定された観光危機管理計画の周知を図りながら、同計画に基づき、平常時及び災害時の対応を実施する。また、観光危機管理計画に基づき定期的に避難訓練を実施し、観光関連事業者等との連携強化を図るとともに、適宜計画の見直し、改善を行う。 ・不測の事態が生じても安全な避難ができるよう、複数の避難経路を確保する等、避難経路の再検討を行い、 ・スムーズな避難報告ができるよう、避難場所への地番等の表示を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>9,180</td><td>9,180</td><td>7,344</td><td>1,836</td><td>0</td></tr></table> 恩納村 9,180千円 委託料 9,180千円 琉球国際航業株式会社 9,180千円 恩納村観光危機管理計画 策定委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,180	9,180	7,344	1,836	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,180	9,180	7,344	1,836	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○当初予定していた事業内容は全て実施しており、適正な規模であったと考えている。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断する。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-④	万座毛周辺活性化施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ			
					観光客の受入体制の整備			
担当部課名	企画課		事業実施 （予定）年度	平成24～31年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	万座毛へ来訪する観光客の増加を図るため、休憩所や地域の特産品販売所、展望台等の機能を有した観光拠点施設及び駐車場を整備する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（32年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	－	14,953	－	8,200	113,740	
		(b) 予算現額	－	20,000	－	11,000	66,360	
		(c) 増減額（b-a）	－	5,047	－	2,800	▲ 47,380	
		(d) 繰越額	13,673	－	14,403	－	－	
		A. 計（b+d）	13,673	20,000	14,403	11,000	66,360	
	B. 執行済額		12,852	5,597	9,313	9,360	55,123	
	うち交付金充当額		10,281	4,477	7,451	7,488	44,098	
	次年度繰越額		－	14,403	－	－	－	
	執行率（％）（B/A）		94.0%	28.0%	64.7%	85.1%	83.1%	
	予算の状況の説明		当初予定していた、第一駐車場整備工事予定地の保安林及び文化財の規制解除にかかる許認可に不測の日数を要したため、工事については次年度以降に取り組むこととしたことから、これに係る工事請負費47,380千円を減額した。不用額11,237千円については、許認可関係により設計面積に変更が生じたための設計額変更及び入札残である。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	施設の実施設計の策定	目 標	整備方針、利用、運営 （計画、施設計画等の 検討）	（基本設計の実施）	（土質調査の実施）	（策定）		
		実 績	整備方針、利用、運営計 画、施設計画等の検討	基本設計の完了	土質調査の実施	策定		
	第二駐車場及び進入道路実施設計の策定	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（策定）		
		実 績				策定		
	達成 状況 説明	当初、第一駐車場整備工事を実施する予定であったが、許認可の影響により工事を実施することができなかったため、年度途中で整備工事を平成30年度へ見送ることとした。 建築実施設計、第二駐車場及び進入道路実施設計は、許認可による設計面積に変更が生じたものの、実施設計を完了することができた。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （32年度）
	施設の実施設計の策定完了	目 標	（ ）	（基本設計 完成）	（土質調査 の完了）	（完了）	（ ）	
		実 績		基本設計完成	土質調査の完了	完了		
	第二駐車場及び進入道路実施設計の策定完了	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（完了）	（ ）	
		実 績				完了		
	【H32成果目標】 施設の年間利用者数 102万人以上	目 標					102万人	
進 捗 状 況 説明	許認可の影響により第一駐車場整備工事を実施することができなかったが、施設の実施設計、第二駐車場及び進入道路実施設計が完了した。 平成32年度の開館に向けて関係機関と協議し、駐車場整備工事及び施設建築工事を実施する。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・許認可を担当する関係機関との調整が難航し、当初予定していた、第一駐車場整備工事予定地の保安林及び文化財の規制解除にかかる許認可に不測の日数を要したため、工事を次年度に実施することとした。 ・工事期間中は、万座毛の利用に影響が出るため、観光客等への事前周知が必要である。	・施設整備に必要な許認可は、駐車場整備工事及び施設建築工事に影響が出ないよう関係機関と調整中である。すべての規制に対する早期許認可に向けて、随時関係機関へ確認していく。 ・工事期間中の万座毛の利用について、沖縄観光コンベンションビューローや恩納村観光協会等を通じて、観光客等への周知が必要である。
今後の取り組み方針		
・事業を計画どおり進められるように、すべての規制に対する早期許認可に向けて、随時関係機関へ確認していく。 ・駐車場の整備工事の開始にあたり、観光客や事業所等への周知を図り、安全に工事が実施されるよう努める。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○許認可の影響により設計数量に変更が生じたため不用額が発生したが、予算規模は概ね適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤	あしびなー施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ		
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	企画課	事業実施 （予定）年度	平成29～31年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	地域の伝統芸能の保存継承及び観光誘客を図るため、観光交流施設を整備する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（32年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,678					
		(b) 予算現額	2,678					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	-					
		A. 計 (b+d)	2,678					
	B. 執行済額		2,397					
	うち交付金充当額		1,917					
	次年度繰越額		-					
	執行率（％）(B/A)		89.5%					
予算の状況の説明		不用額281千円については、入札残及び基本構想策定委員会の出席者数の減による減額改定によるものであるが、当初計画どおり基本構想を策定することができた。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	基本構想の策定	目 標	（ 策定 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	策定					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
達成 状況 説明	交流施設を整備する地域においてワークショップを開催し、地域の特性や施設の活用について意見を聴取した。その結果を踏まえ、9人の策定委員会により、施設整備に向けた課題の整理、基本理念、必要な施設機能の整理、施設の運営方針等について、基本構想を策定した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （32年度）
	基本構想策定の完了	目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
	【H32成果目標】 施設の年間利用者 1,680人以上	目 標						1,680人以上/年
		進 捗 状 況 説 明	当初計画どおり基本構想の策定を年度内に完了することができた。 引き続き、施設整備に向けて取組みを推進していく。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本施設を整備する地区は、豊年祭やウスデークなどの伝統芸能や行事が行われており、それらは古くから受け継がれた地域独自の文化である。これら地域伝統芸能の継承、各種団体活動による観光誘客を図るため、地域の子どもや多くの若者、観光客等が伝統芸能とふれあえる施設を整備する必要がある。 ・新施設での活動内容や施設機能について地元住民から多くの意見があり、新施設への期待も高いため、計画の具体化にあたっては地元住民への説明及び意見聴取等のコミュニケーションが重要である。	・伝統行事、歴史文化、地域人材等の地域資源を活用した地域住民が主体となった観光体験メニューの提供を想定しているため、地元自治会との意見交換を重ねながら、施設整備計画の具体化をしていく必要がある。 ・次年度以降の設計業務においても、住民意見交換会やワークショップを行い、住民が主体となって利活用できる施設となるよう努める。
今後の取り組み方針		
・地域の伝統行事を継承し、観光客との交流や世代間交流の活性化に資するような施設整備を目指し、地元自治区の意見を反映させながら基本設計計画の具体化に取り組む。 ・次年度以降の設計業務においても、住民意見交換会を行い、整備計画に住民の意見を取り込む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,996</td><td>2,397</td><td>1,917</td><td>480</td><td>599</td></tr></table> 恩納村 2,397千円 委託料 2,397千円 (株)都市科学政策研究所 2,397千円 （あしびなー施設整備事業基本構想策定業務） （地元自治区負担分（交付対象外経費） 599千円）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,996	2,397	1,917	480	599
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,996	2,397	1,917	480	599										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札残により不用額が生じたものの、事業完了に必要な予算としては適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である地元自治区は総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	恩納村国際交流人材育成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（1）－ア				
担当部課名	企画課	事業実施（予定）年度	平成29～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進			
事業内容	村出身者の海外移住に関する歴史の伝承や村出身者の子弟（ウナンチュ）との絆を深めるとともに、国際交流の促進、諸外国との懸け橋となる人材を育成するため、村出身者が移住した各国に対し研修生の派遣及び村出身者の子弟等の受入を実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 ■負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,237					
		(b) 予算現額	3,614					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 623					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	3,614					
	B. 執行済額		3,059					
	うち交付金充当額		2,447					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		84.6%					
予算の状況の説明		・受入事業の文化体験にかかる日数の減や旅費等の精査により、3月補正で623千円を減額した。 ・不用額555千円については派遣事業の印刷製本費の入札残や一部経費をを交付対象外としたこと等によるものである。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	派遣人数	目 標	(2名)	()	()	()	()	
		実 績	2名					
	受入人数	目 標	(2名)	()	()	()	()	
		実 績	2名					
	研修報告会の開催	目 標	(各1回)	()	()	()	()	
		実 績	合同1回					
	達成状況説明	・派遣事業は、2名の派遣に対して7名の応募があった。面接の実施と検討委員会で協議し2名を派遣した。 ・受入事業は、2名の受入に対して3名の応募があった、申請書類や応募者親戚の受入理解を把握し2名を決定した。 ・研修報告会は、各々1回の開催を予定していたが、派遣及び受入研修生並びに関係者が相互事業の理解や興味を深めるため合同で開催した。						
	成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度
(派遣事業研修生へのアンケート) 海外移住の歴史や国際交流に関する心境に変化があった		目 標	()	(100%)	()	()	()	()
		実 績		100%				
(受入事業研修生へのアンケート) 沖縄県及び恩納村の歴史や文化、国際交流に対する心境に変化があった		目 標	()	(100%)	()	()	()	()
		実 績		100%				
進捗状況説明		・派遣事業及び受入事業研修生の満足度については、研修終了後にアンケートを実施した。 ・派遣の研修生からの回答を集計した結果、ウチナーンチュであることの誇りを再認識したことに加え、海外のウチナーンチュのアイデンティティを強く感じ、研修生自身、今後の仕事や生活、世界で活躍するウチナーンチュになりたいと満足したとの回答が得られた。 ・受入の研修生からの回答を集計した結果、文化の違いに戸惑いを感じたものの、自分のルーツを理解できたことや沖縄との繋がりを更に深めたこと、新しいことを学び相互理解を樹立するなど研修前より国際交流に対し心境の変化があったことの回答が得られた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・恩納村から海外へ移住した村出身子弟等との関係が希薄になってきている。移住した一世の高齢化や二世三世の言葉の問題による交流の減少、海外移民の歴史について現在の村民の認識不足などが課題となっている。 ・受入事業にて名桜大学の協力のもと研修生が大学寮に滞在する機会を設け、類似事業で来日している他市町村の研修生や留学生等と交流を深めることができたことが目標値達成の要因と考えられる。	・派遣事業、受入事業ともに、新たなホームステイ先を確立することで、海外へ移住した村出身子弟等と現在の村民との新たなネットワークを形成し、移住の歴史の継承を図る必要がある。 ・海外移住の歴史を持つ他市町村と調整して受入事業を同時期に行い、研修プログラムを共同で実施したことや地元大学生、留学生等との交流機会を設けることで、受け入れた研修生の満足度が高められたので、引き続き受入プログラムの充実を図る。
今後の取り組み方針		
・派遣事業では、引き続き各国の村出身者宅にホームステイの協力を依頼することと、受入事業の過去の研修生と連携を図り、研修生宅等での協力を依頼し、新たなホームステイ先を確立する。また、受入事業においても、村出身子弟等と村民との新たなネットワーク形成ができるよう、これまでの受入家族以外のホームステイ先を確立するため、派遣研修生宅でのホームステイの協力等を依頼する。 ・受入事業では、他市町村の受入事業との共同実施や地元大学生、留学生等との交流機会に加え、恩納村民及び親戚との交流をさらに深めることができるように、受入期間中に他市町村の研修生との合同歴史学習や、村イベントへの積極的参加を行うなど、プログラム・スケジュールを考える。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,059</td><td>3,059</td><td>2,447</td><td>612</td><td>0</td></tr></table> 恩納村 3,059千円 → 報償費 114千円 → 名護市長25千円 （琉球舞踊） （社）恩納村観光協会86千円 （サンシン、料理、シーサー民具作り） （株）沖縄工芸村3千円 （琉球ガラス） → 旅費 2,381千円 → （有）沖縄インターオーシャン2,288千円 （航空運賃等） 個人（4名）93千円 （費用弁償、車賃、食卓料） → 需用費 136千円 → （有）巴印刷136千円 （報告書） → 役務費 139千円 （障害保険料、郵便料） → 使用料 3千円 （県内研修時の入場料） → 負担金 286千円 → 個人（2名）286千円 （宿泊費、光熱水費、書籍費、授業料）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,059	3,059	2,447	612	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,059	3,059	2,447	612	0										
資金 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支払先は、受益者及び事業目的に即した団体である。 報告書作成については、少額であったため随意契約としたが、見積入れで選定しており、妥当であったと考える。										
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		△業務料の精査等により当初予算額より1,178千円の減額が生じた、今後詳細な内訳による見積りや積算により適正な予算計上に努める。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者負担について、対象経費としてそぐわない経費は除いているため妥当であったと考える。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目、使途については精査し、目的に即し、必要なものに限定されていると判断した。										

市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-①	特別支援教育支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ウ				
担当部課名	恩納村教育委員会 学校教育課	事業実施（予定）年度	平成29～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進			
事業内容	恩納村立幼小中学校に在籍する何らかの支援を要する児童生徒に対応した支援を行うことで学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を配置する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	29,648					
		(b) 予算現額	25,566					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,082					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	25,566					
	B. 執行済額		25,503					
	うち交付金充当額		20,402					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		99.8%					
予算の状況の説明		・8月分の報酬及び共済費について交付対象外経費としたことや、出勤日数及び交通費等の精査により予算現額に▲4,082千円の減額が生じた。 ・不用額について63千円が生じたが当初計画どおり支援員を配置することができた。						
活動目標（指標）及び達成状況			達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	特別支援員配置数 ・小学校 8人	目 標	(8人)	()	()	()	()	
		実 績	8人					
	特別支援員配置数 ・中学校 4人	目 標	(4人)	()	()	()	()	
		実 績	4人					
達成状況説明	・支援員を配置したことで学習面はもとより児童生徒の生活面での改善も図られた。 ・途中、支援員の病気退職があったが速やかに補充することができ、目標値どおり配置された。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（29年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（30年度）
	学校評価における、特別支援教育に関する項目について、「学校は、特別な支援が必要な児童生徒に対し適切な対応ができていると思いますか」で、評価3以上（4段階評価）が93%以上を目指す。	目 標	(93%以上)	(93%以上)	()	()	()	()
		実 績			91.5%			
	【H30成果目標】 特別支援員の対応について、保護者等を対象にアンケートを実施： 学校生活や学習上の困難の改善が図られた等の肯定的な回答80%以上 アンケート結果を含め、本事業のあり方について検証する。	目 標						80%以上
	進捗状況説明	・91. 5%の内訳として評価4が54. 0%、評価3が37. 5%と評価4の割合が大きい結果となったが、目標値である93%以上は達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・保護者を対象としたアンケートで「学校は、特別な支援が必要な児童生徒に対し適切な対応ができていますか」との設問(4段階評価)に対して、「1」もしくは「2」(低評価)と回答した保護者のなかには、つきっきりでの支援を要望する支援対象児童生徒の保護者も含まれ、特別支援教育に対する理解が十分に得られない保護者が少なからず存在する。	・保護者へ特別支援教育に関することや支援員の活動がどのように行われているかを周知し、認知向上を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
・支援員の活動内容を学校だより等により周知を強化する。また、授業参観や保護者面談をとおして対象となる児童生徒の保護者から特別支援教育に対する信頼を高めていけるよう取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>27,678</td><td>25,503</td><td>20,402</td><td>5,102</td><td>2,174</td></tr></table> 恩納村 27,678 千円 報酬 24,061千円 報酬(交通費含む) 支援員(12人) 24,061千円 共済費 3,617千円 社会保険料及び雇用保険料 支援員(12人) 3,617千円 8月分の報酬及び共済費(交付対象外) 2,174千円 〔 小学校 8人 中学校 4人 〕 〔 小学校 8人 中学校 4人 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	27,678	25,503	20,402	5,102	2,174
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
27,678	25,503	20,402	5,102	2,174										
資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は「恩納村特別支援教育支援員配置要綱」「恩納村嘱託職員の任用等に関する規則」に基づいた支援員への支出であり妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は63千円であり予算規模は妥当であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○村条例に基づいた積算および出勤簿管理により支出しているため適正であると判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	恩納村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	公営墓地整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア				
				沖縄らしい風景づくり				
担当部課名	村民課	事業実施 （予定）年度	平成28～31年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－10－（1）			
事業内容	沖縄独特の墓地散在化の抑制及び既存墓地集約化により、観光地としての景観的な配慮や地域住民の生活環境の改善を図るため、恩納村墓地公園を整備する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☐ 後年度（ 年度）							
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,484	41,348				
		(b) 予算現額	2,376	55,274				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 108	13,926				
		(d) 繰越額	0	0				
		A. 計 (b+d)	2,376	55,274				
	B. 執行済額		2,376	54,917				
	うち交付金充当額		1,900	43,933				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	99.4%				
予算の状況の説明		・H28年度の設計完了に伴い交付対象経費を精査した結果、当初見込んでいた交付対象経費より13,926千円増となった。 ・不用額357千円については入札残によるものである。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	墓地公園造成工事	目 標	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	実施					
	公衆トイレ実施設計	目 標	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	実施					
	納骨堂建設のための土質調査業務の実施	目 標	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	実施					
	達成 状況 説明	年度途中（第3回変更）での追加事業であったが計画的に業務を発注することができた。 公営墓地を整備したことにより墓地用地の提供や駐車場の利用が可能となった。また、調査や設計の完了により次計画の取り組みが図れる。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度 ）	29年度	30年度	31年度
墓地公園造成工事の完了		目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
公衆トイレ実施設計の完了		目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
納骨堂建設のための土質調査業務の完了		目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
進 捗 状 況 説明		当初計画どおり造成工事、トイレ実施設計及び土質調査を年度内に完了することができた。 引き続き、施設整備に向けて取り組みを推進していく。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・納骨堂式の共同墓地は住民にとってまだ一般的ではなく、利用に抵抗を感じる住民が一定の割合いることが判明した。	・共同墓地を含む墓地公園は墓地の散在化防止・集積に有効な手段であり、今後の自治体運営に不可欠なものであることを理解してもらうことで、墓地公園の利用を促進する必要がある。
今後の取り組み方針		
・墓地の散在化防止対策の周知を図ると同時に本施設への誘導を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>68,007</td><td>54,916</td><td>43,933</td><td>10,983</td><td>13,091</td></tr></table> 恩納村 68,007千円 委託料 3,132千円 株式会社沖縄チャンドラー 3,132千円 （恩納村墓地公園土質調査委託業務） 委託料 1,155千円 株式会社沖縄チャンドラー 1,155千円 （墓地公園内公衆トイレ実施設計委託業務） 工事請負費 63,720千円 合資会社平安名組 63,720千円 （恩納村墓地公園及び駐車場造成工事）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	68,007	54,916	43,933	10,983	13,091
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
68,007	54,916	43,933	10,983	13,091										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当である と考える。 △不用額は入札残の357千円であり予算規模は妥当であっ たと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目 的に即し、必要なものであったと判断した。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												